

紀州湯浅のシロウオまつりが開催されます

今回で8回目を迎える「紀州湯浅のシロウオまつり」が、下記日程で行われます。シロウオのおどり食い体験やフリーマーケットなどもありますので、みんなで一緒に楽しみましょう。

開催日時：3月13日（日）10時00分～14時00分

開催場所：島之内商店街周辺



まつりの開催に先立ち、2月20日（日）広川河口のゴミ拾いや草刈りなどボランティア清掃が行われました。保存協議会の委員や小学生なども参加し、100人以上が集まりました。



【シロウオ（スズキ目ハゼ科シロウオ属）】
遊泳性のハゼで、全長5cm前後、沿岸の藻場に生息しています。春に産卵溯上のため河口付近に集まった親魚を四つ手網で捕獲しています。
シロウオとよく似た魚で、シラウオ（サケ目シラウオ科シラウオ属）がいます。

保存協議会委員の改選時期が近づいています

3月末をもちまして、保存協議会”現”委員の任期が終了します。総会をはじめとする各会議への出席や他地区への視察研修など、2年間ご苦労様でした。各区から新たに委員を選任して頂き、4月1日から新たな体制でのスタートをきりたいと思います。なお、今年の5月18日（水）～20日（金）までの間、滋賀県東近江市において第33回全国伝統的建造物群保存地区協議会総会（以下伝建協総会）が開催されます。各種講演や住民同士での意見交換会、他の伝建地区視察などの住民プログラムが用意されているため、保存協議会委員の伝建協総会出席を考えています。このような機会にも積極的に参加し、みんなで住みよいまちづくりをすすめていきましょう。

湯浅伝建地区保存協議会

まちなみ瓦版に皆様のご要望などを掲載していきたいと思ひます。ご意見・ご要望などございましたら、右記編集委員まで連絡をお願いいたします。

編集委員

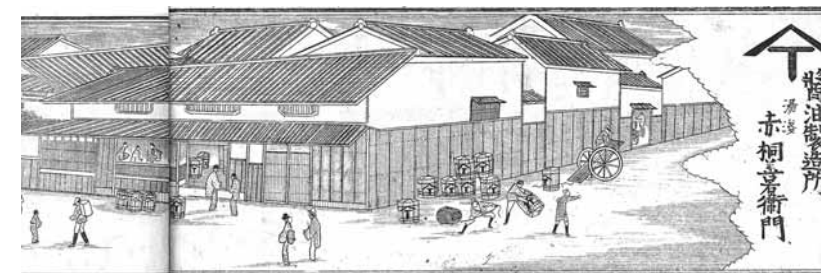
北町区：楠山 吉雄
北浜町区：半邊 宗五
北中町区：妻木 禎子
北鍛冶町区：齋藤 春太郎

まちなみ瓦版

- 平成23年3月1日
- 第4号
- 発行：湯浅伝建地区保存協議会
- 発行責任者：木下 智之

伝統的建造物の歴史（2）

2月に北浜町にある中家倉庫（旧赤桐家）の修理工事が完了しました。以前、薬局としても使われた経歴があり、正面にシャッターと赤い大きな看板がついていました。この建物は、明治18年（1885）に発行された「有田郡名勝豪商案内記」などに当時の様子が残されており、それらを基に伝統的な外観を然るべき旧状に復元しました。とはいえ、全てを建築当時の形状に戻すと、倉庫として活用したいという施主の希望にそぐわないため、扉の形状などについて、町並みに調和し、かつ、現在の用途に応じた配慮をしています。



有田郡名勝豪商案内記より



修理前(ビフォー)



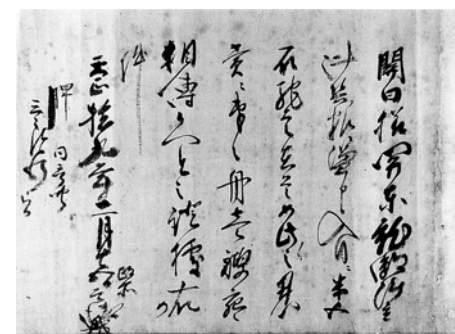
修理後(アフター)



第1回の津浦家に続き、今回は、上記の中家倉庫を含めた北浜町の旧赤桐家について紹介したいと思います。

湯浅は、醤油発祥の地として知られています。醤油は、鎌倉時代の僧覚心（法燈国師）が、中国の宗に渡り、修行の傍ら習得した金山寺味噌の製造過程から生まれたといわれています。江戸時代には、紀州藩の手厚い保護を受け藩外販売網が拡張され、文化年間（1804～1818）には町内に92件もの醤油屋が営業していたといわれるほど、代表的な産業となりました。明治維新後、紀州藩の保護を解かれるなどの危機に直面しましたが、品質向上や海外等への販路開拓

などに力を注ぎました。また、明治32年（1911）全国に先駆け湯浅醤油同業者組合の結成、大正11年（1914）には赤桐善右衛門、久保瀬七、玄後市良兵衛の3名が湯浅醤油株式会社を設立し、県下一を誇る工場を湯浅町内に建設する等、様々な努力を続けてきました。数ある醤油屋の中でも、赤桐家には有名なエピソードがあります。天正19年（1591）豊臣秀吉の小田原攻めのおり、湯浅の赤桐三郎四郎が



大船一艘代々相伝（赤桐家蔵）

次ページへ続く

兵糧米を献上し、その恩賞として「大船一艘代々相伝」を差し許されました。その際に豊臣秀吉から頂いた書状は、現在も大切に保管されています。天下平定に向かっていたとはいえ、世は戦国時代、軍船に転用されるかもしれない大船を所持することは極めて異例であったといわれています。その船は醤油の積み出しに充てられ、全国に出荷されていきました。また、北浜町の中家倉庫から大本教紀伊本苑までの敷地全てが赤桐家のものであったといわれており、そのことから、醤油醸造には広大な敷地が必要であることがわかります。

現在の大本教紀伊本苑は、明治37年(1904)の湯浅醤油醸造同業組合諸味査定高の筆頭である赤桐善右衛門が娘の分家に際し、明治40年(1907)に普請した建物です。主屋は間口およそ7間、奥行6間で、2階には、長さ5間以上におよぶ虫籠窓があり、町家建築としては湯浅最大級の規模を誇ります。屋根には「むくり」をつけ、巨大な屋根に丸みをつけることで、幾分穏やかな感じを与えています。醤油醸造業は大正期に廃業し、主屋以外の付属棟が現存せず、屋敷としての構えが残っていないのは残念ですが、醤油で栄えた湯浅の当時の大型商家の様相を伝える貴重な遺構といえます。



大本教紀伊本苑

知って
おこう

「保存審議会」って何？

「湯浅町伝統的建造物群保存地区保存審議会」とは、伝建地区の保存計画や修理修景事業の内容などについて審議を行う機関で、保存条例に基づき設置されています。保存審議会の委員は、地元住民の代表者や、学識経験者、関係行政機関職員などによって構成されています。1月25日(火)に今年度の保存審議会が開催され、平成22年度事業の経過報告や平成23年度事業計画物件について審議が行われました。審議結果は、次年度の事業計画に反映されます。その後、国や町などで保存修理事業に係る予算が成立すれば、4月から平成23年度事業の工事着工が可能となります。



自主防災組織4地区合同会議が開かれました

日 時：1月23日(日) 19時00分～21時00分

場 所：甚風呂 主屋1階座敷

湯浅広川消防組合の職員を招き、その指導の下で、伝建地区内4地区における災害時の協力体制作り・防火水槽や可搬式ポンプを使っでの合同訓練・資機材点検など、各区で行う訓練等について打ち合せ会議が行われました。「長い間放置しては、いざというときにエンジンがかからないので、資機材点検



を月に1回は行うべきでないか」や「北の町老人憩の家の竣工式にあわせて防災訓練を実施するのはどうか」など積極的な意見交換ができました。また、湯浅広川消防組合から、住宅用火災報知機の設置に関する指導がありました。住宅用火災報知機は、消防法の改正により、今年6月までの設置が義務付けられています。

湯浅小学校3年生が社会見学に来ました

「昔の生活用具を実際に見て、往時の生活を学ぼう！」という社会科の授業の一環として、2月1日(火)3日(木)4日(金)の3日間にわたり、湯浅小学校の3年生約90名が、甚風呂へ社会見学に来ました。生徒たちは、スタッフから甚風呂の昔の様子や、古民具等についての説明を熱心に聞き、メモをとっていました。「こんなところがあるなんて知らなかった！」や「おもしろかった！また来たいよ！」という声も聞こえてきていました。観光客向けの資料館や、地域の方々が集まるコミュニティの場としてだけでなく、小学校の教材としても役に立っており、とてもうれしく思いました。



田村小学校3年生の醤油作り見学

2月22日(火)田村小学校の3年生9名が、醤油の作り方や歴史について学ぶために伝建地区に来ました。角長さんでは、醤油醸造の様子を学び「同じ味にするにはどうするのか」など積極的に質問をしていました。また、普段なかなか来る機会のない町並みを見て「江戸時代に来たみたい！」等とても楽しそうでした。

